



戊辰略記

勝安州初對面、
第2回各、
講理
証書

早稲田大学図書館
文書 27
B 8



戊辰

正月二十五日上京事

三月二十四日大坂へ赴事

五月十四日京師出陣備藩事

同月十八日白石表出陣事

同月二十三日仙臺出陣事

五月二日新庄出陣事

五月七日帰藩事

同月九日仙臺出陣事

同月二十六日仙臺出帆上京事

六月二日江戶品川海軍船事

七月十日江戶出發橫濱赴事

同月二十七日橫濱出帆上京事

八月六日京師到着事

同月十四日京師出發兵庫赴事

同月二十八日兵庫出帆橫濱赴事

九月朔日江戶到着事

同月廿日東京出發歸藩事

同月廿日歸城復布事

同月十八日福島出張事

同月二十六日曾津出張事

仁和寺、兵庫、松原、吉野、今津、
以道海三事

十月七日山形出張事

參謀大山松筋、岩崎、山形、山形、
引直進、一節

同月十六日東京、赴事

上杉、高田、新井、天、
三月七日、朝、

已巳

二月初七日宿野、赴事

三月公議副役、赴事

一賜、向、粟、種、料、
一賜、金、示、判、五、枚

四月四日、山形、出張、赴事

八月公用人、赴事

十月、蝦夷地、出張、赴事

三條大將大臣、召、赴事

十二月、
三、

望出片與相原候ノ様
 九條路在無智ノ舉動
 仙臺ノ事是北ノ所ノ様也
 米海兵少少ノ様也
 市中ノ事ノ命ト云ク米海兵ノ様也
 仙臺ノ事也
 品川沖間向艦會
 水川勝安局ノ事也

戊辰大坂市中

正月元日

市中より荷物ヲ積上ニ車借共成ハ軒屋ヲ兵糧ニ舟
 積出ニ繰出ス

二日

肥後ノ人数繰出ニ五才の時向ノ様也
 陸路ノ事

三日

夕暮ニ伏水邊ノ火ニ手揚ノ様也

四日

曉七ノ大砲ノ事一淀堀ノ薩州燒失土州印ノ燒

五ツ時より夕暮迄城内より大抵高き中よりありて
輿車より高き由上り所付迄所より空際より皆人々
長く逃下りて

物置城代一層より高き中より町奉行見送
夕暮より城内より食入の辺に捨籠りし物拾ひ新野

八日

城門より兵糧より東本願寺會津本陣より車之頃
迄お持運し軍用金も一箱よりお運ひ至
城内より兵小屋焼く焼く
城内剣銃器械等町人共奪取りて

九日

曉方より筋金川内より小屋より焼く長州人の明方より亂
る家より土子、傍り盡く長州人の掛馬標等
と云ふ事あり

京指し門内より火より土子より玉造より小屋より砲撃あり
三浦より火より揚り物事時より本城より火あり百
の内一城内に火焔流りてあり

十日

城外より大薬庫辰刻、夜火より浪連中震動あり
仁和寺宮平後西本願寺御堂より御着あり

十一日

終日城内焼く相入りて城の火勢絶

拾七

大坂道頓堀唐金屋店名簿より家数一日集
之書
明治元年三月

廿二斗百編了

官金九兩二分五厘百廿四文

右の内

一金三兩二分五厘百文

三本木吉田屋月波梅子
頼徳市平号支那
招請酒肴并花巻料

紙

子書

服乃藩子河向子
木松

菓子

菓子唐金屋家
為子印

一金三兩

一七〇文

一〇〇文

一〇〇文

一〇三文

二十二年五月廿五日

戊辰正月廿五日

一 三兩 水引銀金

一 三兩

古金

一 三兩 水引銀金

古金

一 五兩 水引銀金

一 五兩 水引銀金

古金

一 三兩 水引銀金

古金

一 金指 五兩 水引銀金

一 水引 水引銀金

一金拾壹兩沙朱と昔久之内

一八兩三匁四厘

二月廿日京都所出銀紙
二月十七日京都所出
道中費用一式

二 沙朱沙朱五匁
京都と九金

一 五兩沙朱と昔

先河内金

一 三兩五匁

二月廿日 大田原改之印 九金

一 一兩沙朱と昔

二月廿日 京都所出銀紙

一 一匁沙朱と昔

三島所改之印 九金

二月廿日 京都所出銀紙と改

一 六匁

用心屋

一 沙朱

用心屋

一 沙あき分 沙朱

水多能 砂屋

ノ 拾あき分 沙朱

ぬい内 是為沙朱、十、倍、並、通、代、是、為、沙、朱、
召遣、い、の、助、道、波、の、元、端、の、道、納

砂子

一 金九両き分

京都 砂屋 砂屋 砂屋

山長

戊辰五月

雨雨申連、早第を、漸く仙居を、用ひ、地を、賜、
と、氣、味、を、黄、汁、白、果、孔、と、流、半、一、の、名、止、指、く、所、
檀、堂、に、お、り、片、山、と、推、測、一、の、は、友、と、有、後、
命、と、す、ま、と、畏、懼、を、思、い、在、田、の、光、を、何、と、為、
願、う、多、用、な、ま、の、り、と、し、十、常、一、如、し、也、杜、君、醒、其、
上、事、と、命、の、不、道、と、秘、慮、せ、し、も、り、
養生、と、十、病、片、山、と、身、派、一、の、白、く、今、田、に、使、命、と、
誠、と、懐、直、と、味、が、予、太、田、代、の、勅、の、ま、ま、片、山、日

先生は陰仙居し地不可説先生は千金の身
 世一をく候及く海に学す一終者壽壽也
 我暇時氷冷水を澆めし予は片山一をく候及く
 予は片山一をく候及く命はこゝに命あり担ひ仙人は生れ
 媚は終る世に我為士と虎根と後を
 呼ぶ為女し山亦若生上あり片山も亦同行し
 深きと深きし片山に億病あり多し候
 此二首を中法死とあり一際暇をの困窮あり
 予は片山一をく候及く 七未百十甲に

左の
 □

越
 十六

山形 □
 上 □

米田 □

官年九月
 米田

□
 九月五米田
 越

明治元

九月廿三日

會

口

十年

九月廿三日

口

城山